

製品名: ADD1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab06617**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	ADD1
別名	ADD1; ADDA; Alpha-adducin; Erythrocyte adducin subunit alpha
遺伝子 ID	118.0
SwissProt ID	P35611
免疫原	抗血清はヒト ADD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 411-460

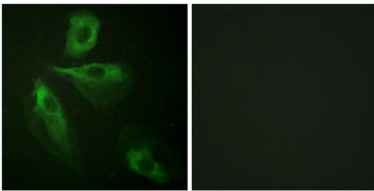
背景

アデュシン 1 (ADD1) Homo sapiens アデュシンは、3つの遺伝子 (α , β , γ) によってコードされる細胞骨格タンパク質のファミリーです。アデュシンは、異なる遺伝子から生成されるものの類似の構造を共有する関連サブユニットからなるヘテロ二量体タンパク質

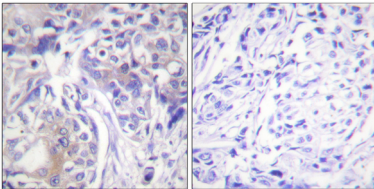
です。α-アデュシンとβ-アデュシンには、プロテアーゼ耐性のN末端領域と、プロテアーゼ感受性の親水性C末端領域が含まれます。α-アデュシンとγ-アデュシンは普遍的に発現します。対照的に、β-アデュシンは脳と造血組織で高レベルで発現しています。アデュシンはCa(2+)/カルモジュリンに高い親和性で結合し、プロテインキナーゼAおよびCの基質です。選択的スプライシングによって、異なるアイソフォームをコードする複数のバリエーションが生じますが、すべてのバリエーションが完全に説明されているわけではありません。[RefSeq提供、2008年7月]、代替製品：追加のアイソフォームが存在すると思われる、ドメイン：各サブユニットは、3つの領域（NH2末端のプロテアーゼ耐性球状ヘッド領域、短い連結サブドメイン、およびプロテアーゼ感受性テール領域）から構成される。機能：スペクトリン-アクチンネットワークの構築を促進する膜細胞骨格関連タンパク質。カルモジュリンに結合する。PTM：N末端はブロックされている。類似性：アルドラーゼクラスIIファミリーに属する。アデュシンサブファミリー。サブユニット：αサブユニットとβサブユニット、またはαサブユニットとγサブユニットのヘテロダイマー。ROCK1に結合する。組織特異性：すべての組織で発現する。網状赤血球ではβサブユニットよりもはるかに高いレベルで存在する。、

研究分野

画像データ



ADD1抗体を用いたHeLa細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ADD1抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。